

# 「日本3.0」

Vol.22

「さよなら、おっさん」を告げるとき

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

財務省事務次官のセクハラ、TOKI O山口達也容疑者のわいせつ事件、日本大学アメフト部の危険タックル問題など、今年に入ってから、世間を賑わせている問題には共通点があります。それは、おっさん中心の価値観、おっさん中心のシステムから生まれたものであるということ。ここでいう「おっさん」とは、年齢のことというより、古い日本のさびついた価値観やシステムのことです。男性優位かつ上意下達かつ年功序列かつ終身雇用かつ生え抜き重視。そうした

社会で生きてきた人と、より多様な社会で生きてきた人との軋轢が一気に噴出しているのです。

3つの問題にはもうひとつ共通点があります。それは、政治家、メディア、教育という、日本の三大ガラパゴス業界で起きたということです。

さすがに、平成の終わりが近づき、多くの民間企業では、以前のようなセクハラ、パワハラは減ってきました。しかし、この3大ガラパゴス業界は、グローバル化の影響も薄く、閉鎖的であるため、おっさんシステムが生き残ることができたのです。そこに疑問を感じた女性や若者、さらには世間全体がノーを突き付けたのです。

平成の終焉を迎えつつある今こそ、日本は「さよなら、おっさん」を告げなくてはなりません。

「さよなら、おっさん」とは誰かを貶めるものではなく、「おっさんシステムからいいかげん卒業して、新しい経済や社会をつくろうよ」という前向きなメッセージなのです。

新しい時代をつくるために何よりも

大事なのは、思想や価値観です。

明治維新も単に政治家によって成し遂げられたわけではありません。新しい時代精神をつくったがゆえに、新時代を迎えられたのです。その代表が、『学問のすゝめ』を書き、慶應義塾を設立し、時事新報という当時の日本一のメディアを立ち上げた福沢諭吉です。

当時、福沢諭吉は、「門閥制度は親の敵」と述べ、身分制度の打破を訴えました。現代の身分制度は、年功序列、非正規・正規、男性優位のルールといったものであり、それを集約するキーワードが「おっさん」です。現代のおっさんは、明治時代のサムライみたいなものなのです。

今後の日本は、会社も社会も、「おっさんVS若者・女性・外国人」という構図がさらに強まり、おっさんからのパワーシフトをいかに早く起こせるかで命運が決まります。

今回の3つの問題が単なる個人叩きでなく、新しい社会の創設、新しい時代の始まりとなることを強く願っています。



## Profile

NewsPicks CCO (チーフコンテンツオフィサー)  
1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。リニューアルから4カ月で同サイトをビジネス誌系サイトNo.1に導く。2014年7月から経済ニュースサイト「NewsPicks」の編集長を務めた。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」がある